

・今回から10年プロジェクトから新メンバーCさんが加わり、新たなMtgの形を模索してのスタートとなった。

個人的には、前回の話し合いで「こうしたい」という話し方ができなかつたので、それを反省点として臨んだつもりだった。が、いつもの話慣れた口調が先に出てしまうので、それを言い直すような形で、歯切れの悪い話し方になってしまった。ただ、訂正を織り交ぜながらではあるが、こうしたいと思っていると伝えることができたのは良かった。自分自身が「こうしたい」を軸に考えられていないと、相手の「こうしたい」にも無頓着になってしまうので、継続して練習していきたいと思った。

メンバーAさんの目標は、自分も軸を見失ってしまう時があるからこそ非常に共感できるものだし、本気で達成を願うからこそ、ネガティブなフィードバックも積極的にしていきたいと思った。

私の目標は、自分の現在地をみんなに共有する時間となった。母親の愚痴を聞き切ることは負担になるのではとAさんが心配してくれたこと、長期的な取り組みになるだろうから、Mtgで継続して話を聞いていくとBさんが言ってくれたことが嬉しかった。

母親は子供を優先しなければならないのか？とAさんに問われて、40過ぎにもなって自分を優先してほしいと考えるのは、それこそ甘えだなと冷静になれた。陽子さんからは、改めて、家族に対する定義がバグっていると、初見のCさんに

もわかりやすくフィードバックをもらった。父のこと、母のことを抜きにして、真っ新たな状態で、私は家族とどんな関係を築いていきたいのか。改めて考えたいと思った。

Cさんの目標の話では、「体調が悪くても、目標に関することやmtgでは配慮は不要」という共通認識を陽子さんが示してくれたことで、今後関わる上で迷いがなくなった。Itoメンバーが共通して抱えていた不安を言語化して、解決策をすぐさま提示してくれたところは、さすがだなあと思った。

Bさんの目標は、アウトリーチの方面に積極的に取り組んでいることが最近の活動から伝わって来ていたので、今後のバランスの取り方や、優先順位を聞きたいと思っていたが、研究の満足度が1番大事だということがわかったので、そこに着目して、フィードバックを行っていきたいと思った。

Mtgへの参加目的、お互いの目標を共有したことで、今後の関わりについてイメージが持てた。昨年一年の活動を経てそれぞれ意見を言うことには迷いはなくなって来たけど、今回陽子さんが入ってくれたことで、話が円滑に進んだ場面が何度もあった。もっとスムーズに相手に届くよう伝える練習が必要だと思ったし、自分たちの力で前に進める会話ができるようになりたいと思った。

(E.M 40代女性 埼玉県)